

公衆衛生看護学

教授 鳩野 洋子
Yoko Hatono

現在の研究テーマと内容

保健所統括保健師の役割を明確化し、その実践状況を数量化することで可視化する研究と、並行して、2015年に開発した市町村の統括保健師の実践行動の尺度を用いて、市町村の統括保健師の実践状況の変化と実践状況に影響している要因の分析を行っています。

そのほか、若年認知症患者の家族介護者のニーズの研究や、外国人結核患者が服薬を完遂するための保健所保健師の支援などの研究も実施しています。

これまでの研究成果と今後の展開

公衆衛生看護活動、特に管理的な活動にかかわることを実施してきました。保健師の行っている活動は、とすれば何をしているのかわからない、と言われます。保健師が行っていること、あるいは行うべきことを明確にし、また、その活動を評価することが必要と思います。

1)保健師の活動実態とその影響要因を分析したもの

・ Karen Tsuruda, Yoko Hatono. Mental Health Status of Public Health Nurses and its Related Factors Under the COVID-19 Pandemic in Japan. Journal of International Nursing Research 2023 ; 2(1) e2022-0007

<https://doi.org/10.53044/jinr.2022-0007>

コロナ下の保健所保健師のメンタルヘルスの状況とそれに影響を与えた要因を分析したものです。

・ 鳩野洋子、鈴木浩子. 市町村保健師の管理職としての能力獲得に寄与した保健師としての経験. 日本職業・災害医学会誌. 2019 ; 67(2):139-145 など

2)保健師・看護師の活動を尺度化したもの

・ Yoko Hatono, Hiroko Suzuki, Taeko Shimazu. Developing a Scale to Measure Public Health Nurses' Advocacy Practices in Group and Community Settings in Japan. Public Health Nursing 2024

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/phn.13478>

保健師が行うアドボカシー行動を尺度化したものです。

・ 鳩野洋子、岡本玲子、長野扶佐美、岩本里織、草野恵美子、小出恵子. 保健活動の成果をみせる行動実践尺度の開発. 日本看護研究学会誌 2014;37(4):55-61

3)保健師の行っていることの根拠を明らかにしようとしたもの

Hitomi Matsuura, Yoko Hatono, Isao Saito. Preventive role of community-level social capital in the need for long-term care and impairment in instrumental activities of daily living: a multilevel analysis. Environmental Health and Preventive Medicine 2023 ; 28(15)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/ehpm/28/0/28_22-00126/_article

地域づくりを行うことの根拠を得るために、ソーシャル・キャピタルの高い地域に住んでいることと要介護状態の一になることの関連を見たものです。

今後も地域での看護現場に役立つ研究のお手伝いをしていきたいと考えています。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

大学院は、教育・研究者を目指す人のための場と考えている方がいます。もちろん、そのような方が学ぶ場でもあります。が、「自分が行っていることを意味づけしたい」、「よりよいサービスを提供したい」、「根拠を実践の場に還元したい」、そんな思いを持っている方が、自らの疑問に対してアプローチする方法を考える場でもあります。もやもやした気持ちを抱えながら活動している方、貴方の疑問を大学院で一緒に考えていきましょう。